

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872201138		
法人名	医療法人社団 順心会		
事業所名	グループホーム しらぎくの家		
所在地	兵庫県加古川市野口町坂井58-1		
自己評価作成日	平成30年7月26日	評価結果市町村受理日	平成30年10月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成30年8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人に対し、話をよく聞いて、関わりを持つ機会を増やし、安全に楽しく過ごして頂けるよう努めています。また、利用者様の情報を申し送り等で共有し、その人に合った食事形態を検討しています。(きざみ、とろみ等)そうすることで、少しでも多く食べて頂けるよう、努めています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームは介護老人保健施設の建物内にあり、デイケアやケアハウスが隣接する高齢者複合施設として、利用者の多様な状況に役立っている。医療法人との合同の勉強会や教育・介護教室が数多く開催され、医療的環境のもと、職員は技術や知識を身につける研修の機会に恵まれている。食を楽しむことについては、以前から力を入れており、四季を感じさせるメニューや旬のフルーツが個々の状態に応じた形状で提供され、利用者に喜ばれている。年間行事においても、食に関わる内容を多く取り入れている。共有空間はオープンキッチンとリビングが一体的で開放感があり、パステルカラーの優しい色合いと落ち着いた絵画が、居心地の良い空間を醸し出している。日々の暮らしの中で、生活歴を活かし、利用者の能力に応じた役割づくりに、職員のきめ細かい工夫が見られる。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 者三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回、詰所会議を開き、問題点を共有し、解決策を検討している。	「ありのままを受けいれ、その人らしく生きることを実現する」という理念を掲げ、利用者が自分の思いを遠慮せずに言え、職員がその時々のお気持ちを尊重して受けとめることができる施設を目指している。接遇委員会の目標も意識し、一人ひとりに応じたケアを心がけている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二ヶ月に一回、運営推進会議を開催し、市役所町内会、家族様に参加して頂き、買い物、行事、家族様との交流、中学の運動会見学、トライやるウィークの受け入れ等を行い、報告している。	定期的に、ボランティアがゲームや歌、季節感のある折り紙制作を企画し、垣根の剪定なども手伝ってくれる。最近では、男性の器楽演奏が利用者に好評であった。中学生のトライやるウィークの受け入れ、運動会の見学に参加して地域との交流を図っている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接する介護施設と協賛して夏まつり、ボランティアの受け入れ、介護教室等を開催し地域や家族様の参加を得ている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	老人クラブやボランティアの協力を得て、「うた」をうたう機会をふやし、利用者様との関わりをより強めるよう努めている。	2か月に一度運営推進会議を開催し、市役所、地域包括、町内会や老人会の地域住民、同法人のグループホームの管理者等が参加する。運営状況の報告をしたり、参加メンバーからの意見や要望をうけ、市や地域包括の職員が制度の話をすることもある。議事録は市と希望者に配布している。	議事録は希望者のみでなく、利用者家族や会議参加者全員に配布し、事業所の実践状況を皆に周知してもらう媒体としてはいかがか。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や防災ネットからのメールを始め、必要に応じて電話でのやり取りを行っている。また、運営会議の議事録は、直接手渡しにて市に提出するよう心掛けている。	市の伝達事項をメールでやりとりしたり、防災ネットを利用している。必要な際には直接出向いで相談したり、運営会議議事録を手渡し、顔の見える関係を大事にしたいと考えている。2市2町グループホーム協会主催の勉強会に定期的に参加し意見交換を行っている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年一回は介護施設と合同で勉強会を行い、正しい知識と情報の共有に努めて実践している。	身体拘束マニュアルを作成し、法人合同の勉強会を行っている。玄関ドアは、内部から外に出るスイッチを利用者が押せる場所に変更、改善した。夜間トイレに行く際の転倒防止に人感センサーを利用している。	緊急性や必要性を家族に説明し、人感センサーを常態化せずに外していく試みを期待している。

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年一回は隣接の老健施設と合同で勉強会を行い、正しい知識と情報の共有に努めて実践している。	身体拘束と同様、法人合同で勉強会を行っているが、徹底には至っていない。管理者は、職員のストレスが、利用者へのケアに影響することを理解し、お互いが注意しあえる環境作り、ルール作りが必要だと認識している。	より良い環境作り、ルール作りを早急に実現されることを期待する。
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年一回は介護施設と合同で勉強会を行い、正しい知識と情報の共有に努めて実践している。	法人合同の勉強会で一通りの知識はあるが、該当する例はなかった。今後も、運営推進会議等を活用し、地域住民や家族に周知を図っていきたいと考えている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の説明を行い、利用者、家族様の同意を得て、サインを頂いている。 何でも聞いて下さいと声をかけ、必要であれば随時、家族との面談をしている。	見学の時点でパンフレットを手渡し、管理者が契約書、重要事項の説明を行う。家族の同意と納得を得た上で契約に至る。近年は併設であることの安心感もあり、介護老人保健施設からの入居が多くなっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の近況を面会時に説明し、必要であれば電話連絡を行っている。玄関に、意見箱をおき、家族様の声をくみとるようにしている。	家族会でアンケートをとり、施設の満足度を調査している。また、毎月家族が利用料の支払いに来所するため、意見を聴く機会があり、汲みとる工夫はしているが具体的な要望は少ない。	具体的に要望が挙がるよう、アンケートの質問を工夫すればどうか。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕の申し送りや詰所会議の際に、情報や問題点を共有し、ケア方法についても随時話し合いの場を設けている。	毎日、朝の申し送りと15時に職員が集まる機会があり、その時に問題点を共有し、意見を出し合うようにしている。できるだけ職員の意見が出やすい雰囲気づくりに心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2市2町GH協会主催の勉強会・講演・研修に参加するようにし、詰所会議において伝達している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のスキルアップのため、研修への参加を促し、介護福祉士受験の打診を行っている。		

自己	第三者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のGH管理者会議や、2市2町管理者会議に参加し、情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接を行い、その人の家庭環境・生活歴を十分に理解し、利用者様の要望に添えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも相談に応じられる旨を家族様に伝えておき、面会時には、状態の報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できるだけ、意見は汲むように心がけている。 必要であれば、他のサービスへの提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が自分でできること、やりたいことは、安全に配慮しながら、見守るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のしらぎく通信において、利用者様の普段の様子がわかるようにしている。行事などで援助が必要な場合も協力を仰いでいる。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様・親戚の方に限らず、知人の方などにも家族様の協力の下、面会に来て頂いている。	家族や親せきの来訪は多いが、昔の知人や友人の来訪は少なくなっている。家族は利用者を食事や墓参に連れ出すこともある。年に2回、食事会をかねて家族会を開催し、家族との交流を深めている。	

自己 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の特性を配慮した上で食事席やグループ分けなどスタッフが介入し、利用者様間での交流がトラブルなく図れるように努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談には、いつでも応じることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝、夕の申し送り、GH会議等で、情報の共有、問題点について話しあっている。	利用者同士の何気なく話す言葉や、表情・口調から思いや希望を把握するよう努めている。特に食事については嗜好調査を行い、好みの物をメニューに反映している。職員は、気づいたことを申し送りノートを活用して皆でその情報を共有している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	看護サマリーや情報提供書より生活歴や馴染みの環境をくみ取り、その上で本人様や家族様等より、アドバイスや情報を得るよう努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カルテ用紙は一週間の兆候がわかるような様式とし、状態の推移が一目でわかるようにしている。面会時の家族のコメントも入れられるようにしている。(注意事項は赤字で記している)		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の近況を面会時に説明し、必要であれば随時電話連絡を行っている。その際伺った希望や意向をカルテに残し、日々のケア、ひいてはケアプランに反映できるようにしている。	排泄、食事、入浴などの身体状況とともに、本人や家族の意向は特記事項に記入している。個別記録をもとにケアプランを作成し、半年ごとに本人の意向や関係者の意見が反映されるよう見直ししている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り等よりの情報を活かし、個人個人に合ったケアを、その時点での状況に合わせ工夫している。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部行事への参加・買い物の同行・緊急時の病院への付き添い等を適宜行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議での町内会、老人会の参加があり、トライやるウィークの受け入れ、介護施設との合同で消防訓練を実施している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診時は普段の様子や心身状態について記し、家族様へ持参して頂き医師へ詳細が伝わる様努めている。	利用者、家族の意向により、これまでのかかりつけ医又は、母体医療法人の受診を選択してもらっている。多くは家族が付添い、母体医療法人を利用している。希望により、歯科往診の利用も可能である。家族等とは、利用者の日々の身体状況についての情報交換に努め、共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身状態に何か変化があった際は、隣接する老健施設と連携をとり、看護師長へ相談のもと受診やケア方法を検討している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の系列の病院がある為、連携をとり、病院関係者との情報交換を密に行うよう努めている。	今年度は入院事例はなく、この夏の暑さ対策として利用者の水分補給及び摂食状況を中心に体調管理に努めた。入院があった場合は、利用者の状態確認とともに、早期退院に向け医療関係者とは話し合いの場を持ち、時期を見極める。職員は利用者を見舞い、安心して治療できるよう声かけに努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では看取りは行っていない。本人様・家族様の意向をくみ取りながら、今後の方向性について話し合いの場を早期に持ち、必要であれば他サービスの紹介を行えるよう、近隣施設との連携に努めている。	入居時に、事業所としての方針を利用者、家族に説明し、納得を得ている。現時点では、終末期までの対応は想定していないが、利用者の状態低下に伴い、早めに家族と話し合うなど情報提供に努めている。利用者、家族が安心できる環境を用意している。	

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の勉強会を隣接する老健施設と合同で行っている。また、GH内でも別に勉強会を行い、各スタッフがスムーズに対応できるように努めている。	
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、防火教育等、定期的に行い、災害時マニュアルを作成している。GHでも、定期的に避難訓練を行い、隣接する老健施設との互いの応援体制も作っている。	ほぼ毎月、防災に関する研修及び確認等を行っている。定期の避難訓練は、施設合同で利用者も共に避難経路を確認している。7月の大雨災害時には、実際の避難はしなかったものの、避難勧告発令に伴いシミュレーションを行った。これを機に具体的なマニュアル整備や部署間の連携の必要性を検討する意向である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中で、職員どうしの会話についても、注意している。また、カルテの明示についても工夫している。	運営推進会議等での早急な検討を望みたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	焦らず、じっくりと考えて、自己決定ができるような態度(ゆったりと傾聴する)などを心がけている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理じいはずに、本人の希望を叶えるように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣は本人の私物である。季節の変わり目に本人様の希望を家族さまへ伝達し、衣替えが行えるようにしている。	

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いをしてもらう機会を多くもつようにし、職員と共に声掛けをしながら実施している。嗜好調査を行い、意見をメニューに取り入れている。	季節感ある家庭的なメニューを心がけ、職員が手作りしている。利用者の好み以外にも、一人ひとりの習慣や食べやすさを考慮し、調理法や盛り付け、分量等を工夫している。職員は、見守りながら、必要に応じてサポートすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様の嚥下状態を把握し、各々に適した調理方法を(きざみやみじん状態での提供)工夫している。 状況に応じて、代替、とろみの付与も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の能力に応じて見守り・付き添い・介助等対応している。義歯の管理が困難な人の場合は、預り・洗浄している。週一回、歯科往診がある。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	カルテに排泄状況を記入し、排泄パターンを把握した上で、個人に合わせて見守り・声かけ・誘導等、自立にむけ支援している。	少数はリハビリパンツ、パット等を利用しており、自分でトイレに行っている。職員は、時には見守り着替え等をサポートしたり、歩行の付き添いを行う。職員からトイレに誘導したり、さりげなく誘うこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握して、必要時には腹部マッサージ、乳製品や水分の摂取を促している。日常のケアだけで改善されない場合は、かかりつけ医との連絡をとり指示を受けている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望をくみ取り、入浴人数や曜日の設定を行い、入浴順にも配慮している。また、入浴剤を使うことでゆったりと入浴を楽しんで頂けるように努めている。	概ね、週2回を目安に入浴してもらっている。職員から声かけすることが多いが、無理強いせず時間をずらしたり、温泉に行きましょと誘うなど楽しんでもらえるよう工夫している。入浴時間や、好みの湯温等、個々のペースやこだわりを大切にしている。	

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のレクリエーション、運動、散歩をして、夜に眠れるように支援している。(眠前に安定剤内服者あり)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の内服薬について表を作成し、用法や効能等を書きしるし、すぐに確認できる位置に置いている。変更があった際もカルテ・連絡ノートにて申し送りの徹底・服用後の変化の記載も欠かさず行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味に合わせた楽しみの時間を作るようにしている。レクリエーションのメニューを増やし、参加していただくようにしている。また、家事のお手伝いにも参加して頂いている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見、移動販売パンの購入、中学校の運動会等に参加するために外出している。外食も計画し、家族と共に外出するようにしている。	年間行事として、全員で行く花見や地元の学校の運動会は、毎年の恒例となっており、利用者の楽しみとなっている。日々の食材の買い出しの際に、利用者も一緒に車で買物に行く。気候のいい時期には外気浴を兼ね、畑を観に行ったり、掃出し窓を開け気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々の生活の中で広告を見たり、欲しい物があれば預り金より購入したり、移動販売での買い物へ行けるよう援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは行っていないものの、希望時に電話をかけて頂けるようにしている。また、面会時に家族様の協力の下、知人の方に面会に来て頂いたり、近況報告して頂いている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	人の気配を感じながら、安心して過ごせるように室内環境にも配慮している。季節に合わせた壁画や行事の写真、園芸等で、季節感を味わっていただいている。	大型のオープンキッチン、複数が作業しやすく使いかたのいい作りとなっている。リビングは広く小花柄の壁紙に、落ち着いた絵画、利用者の行事の写真が飾られている。その日の利用者の役割ともなる札がわかりやすく工夫されている。季節感のある利用者手作りの塗り絵が来訪者の目を楽しませてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに椅子やソファを置き、自由に休めるようにしている。(利用者どうし、居室で話をされることも)		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた布団やクッション・箸や湯飲み、茶碗を持ち込み、使用して頂いている。また家族様との写真を飾ったり、安心できる空間を作るようにしている。(希望すれば、テレビ、ラジオの持ち込み、可)	ベッド、洗面台、棚付きの学習机、大型のクローゼットが備えつけとなっており、ゆとりある広さとなっている。テレビ、馴染みの椅子やお気に入りの小物を持ち込み、居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の個々の能力に応じて、洗濯たたみやお盆拭き・箸並べ・おしぼり巻き・食事時のあいさつ等、スタッフ見守りの下、役割を担って頂いている。		